

VRやARデジタル技術 防災での実用化を目指す 紀宝町と中央大の共同開発

紀宝町と中央大学(東京都)が共同で進めるVR(バーチャルリアリティ)仮想現実)やAR(オーギョに活用できるか確認した。18日も実施予定。研究は、同大学理工学部都市環境学科海岸防災訓練の実用化を目指す2回目の実証実験が17日、町内で行われた。約5年前から紀



VRを体験する参加者

宝町と共同開発に取り組んでいる。VRは、実際の空間に似せるような感覚を得られる技術。現実的には危険な災害や火災など0度の映像を映すこと

を擬似的に体験できるため、防災分野での活用も期待されており、訓練に導入する自治体も増えてきているという。実証訓練は、数回集などを目的に開催。今回の訓練では、「映像にリアリティがなかった」「防災拠点が見えなかった」などの意見があり、これを参考に、映像の精度を高めて、さらに実践的なシミュ

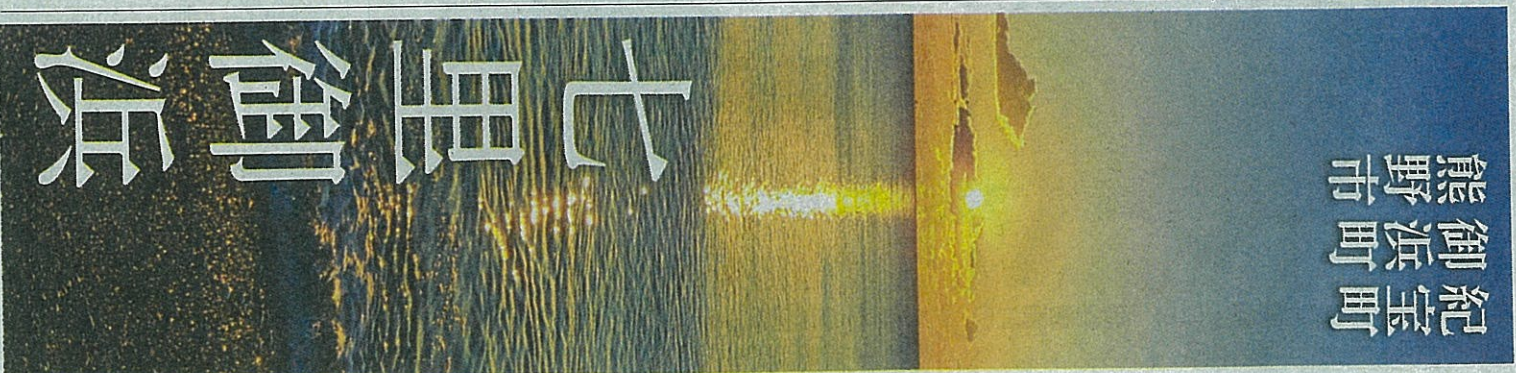
レーションができるよう間を移動していった。体験後に、実際の道路を走ってゴールを目指した。有川教授は「さまざまなシチュエーションに対応できるように、訓練の効果を上げるように、精度を上げた。今回出した意見を参考に、想定した避難経路を示す矢印に沿って仮想空間



VR体験後に有川教授(右)とともに実際の道路で防災拠点を目指す

開発を進め、できるだけ早くデジタルを活用した防災力向上につなげていきたいという。

紀宝町
御浜町
熊野市



迅速な避難目指し実証実験 訓練用VRの開発進める

紀宝町

地震・津波発生時の迅速な避難に役立てよう

17、18日、町民25人の協力を得て、仮想現実(VR)と実際の避難ルート

を歩く実証実験を実施。

VRによる訓練がどれだけ迅速な避難につながる

か検証した。

VR上での避難誘導、避難場所までの最短・最

適経路を示す訓練用シ

ステムの構築を目指し、4

年前から共同開発に取り

組んでいる。昨年12月に

続く2回目の実験で、前

VRによる避難訓練の実
験＝17日、紀宝町防災拠
点施設



回からの面の精度を上げ
るなど修正を加えた。来
年度末の完成を見込んで

いる。
避難訓練用VRは、仮
想現実での訓練を通して

早期の避難意識向上を図
り、実際に地震が発生し

た際、避難場所や経路を
選べるようにすることが

狙い。
中央大学海岸・港湾研
究室の有川太郎教授が

紀宝町の沿岸部を歩き

3年近くかけて現実に近

い町並みを再現。地震発

生後、津波が到達するま

でに避難場所まで逃げ切

ることを目的に開発を進

めている。

今回は△VRでの訓練
を1～3回行った後に実

際、VRと同じ経路を歩
く▽経路を知らない状態

で歩く▽案内を受けて経
路を歩く一の実験を実施

した。

経路は避難場所の役場
防災拠点施設を目指す約

300円で、2日間によ
る検証の結果、VRでの

訓練を多く重ねた人がス
ムーズに避難できたこと

が分かった。

有川教授は「今後は最

え、町全体と地震発生後

のVRを作りたい」と話



VR(仮想現実)避難訓練に成果

紀宝町 中央大と実証実験



【VRを使って避難訓練を体験】



【実際に避難路を歩く参加者】

紀宝町は17、18両日、中央大学と連携し、地震・津波発生時の迅速な避難に役立つよう、仮想現実(VR)と実際の避難ルートを歩く実証実験を実施した。町民25人が協力し、VRによる訓練が実際、災害が起きた際の素早い避難につながる

町と中央大学では4年前からVR上での避難誘導、避難場所までの最短・最適経路を示す訓練用システムの構築を目指し、共同開発に取り組んでいる。避難訓練用VRは、仮想現実での訓練を通して早期の避難意識向上を図り、実際に地震が発生した際、避難場所や経路を選べるようにすることが狙い。

中央大学海岸・港湾研究室の有川太郎教授らが紀宝町の沿岸部を歩き、3年近くかけて現実に近い町並みを再現。地震発生後、津波が到達するまでに避難場所まで逃げ切ることを目的に開発を進めている。

実証実験は昨年12月に続き2回目。前回から画面の精度を上げるなど修正を加えた。今回はVVRRでの訓練を1〜3回行った後に実際、VRと同じ経路を歩く▽経路を知らない状態で歩く▽案内を

受けて経路を歩くーの試験に取り組んだ。

経路は避難場所の役場防災拠点施設を目指す約300メートルで、2日間による検証の結果、VRでの訓練を多く重ねた人がスムーズに避難できたことが分かった。有川教授は「今後は来年度末の完成を見込んでいるという。

地震発生後のVRを作りた」と話していた。訓練用システムは来年度末の完成を見込んでいるという。